



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第一二九号）

穀雨

四月二〇日

## 高麗広開墾碑

内宮の宇治橋前から五ヶ所街道を車でさかのぼること、数一〇分。二〇軒あまりの家々が点在する集落、高麗広があります。先日、その一軒の宮島さんに高麗広の開墾碑を案内してもらいました。ご自宅近くの林の中に入っすらと苔むした石碑がありました。林の中に倒れていたものを立て直したといひます。

「五十鈴川ハ源ヲ神路山大床谷に発し、高麗広深土等ヲ経テ屈折シ、北に流レテ宇治大橋ノ下ニ出ヅ。」

と始まる碑文には、高麗広の開墾は宮島さんの祖先である丑松うしまつさんが始めたとあります。丑松さんは、近江国甲賀郡平松（現・滋賀県甲賀市）の人で、石灰じばいを製造していました。そして現在の志摩市磯部町築地に来ましたが、その近くの高麗広という土地を知り、ここはオオカミや蛇の棲みかとなつているが、開墾すれば良田を得られると、数人と深土から開墾を始めたのが安政三年（一八五六）と記されています。

その後、近隣の人々も開墾に加わり、家も一三軒を数え、開墾した田は一五町にもおよんだようです。

そして、明治二三年（一八九〇）に宇治の町から剣峠を越え、五ヶ所へ通じる五ヶ所道ができ、その道筋にあたる高麗広も車馬を通るようになったのです。それを記念して明治二七年一二月にこの碑が建てられたのです。伊勢市史には、丑松さんは伊勢参りに来て、そのまま居ついたとあるのも伊勢らしいエピソードです。

宮島さんの自宅周辺には、一町の田が広がっています。

「ここでとれるお米は、谷の水で育つのでおいしいの。今度はおむすびをこしられておくわ」と宮島さん。

そろそろ伊勢では田植えの時期を迎えます。

文 千種清美

